

— NO. 198 7月号

FOREST NEWS

広げよう
地球と命を守る
森づくり運動



2024年度 指標

- ①パンタナール地域における潜在自然植生の混植密植形式の植樹の実施
- ②国内において累計500本の植樹活動
- ③植樹を通じた環境問題解決のロールモデルをつくる
- ④セミナーを通じて植樹活動の啓発
- ⑤他団体との連携

NPO法人 地球の緑を守る会

発行人 高津啓洋

〒121-0072東京都足立区保塚町1-6

Tel:03-6783-4707 Fax:03-6783-5595

ホームページ <http://midori.mond.jp/>



パンタナール潜在自然植生① アルガロボ

理事長メッセージ

パンタナールの潜在自然植生を知ろう ～環境問題のロールモデルをプエルトレダから～

潜在自然植生とは、人間活動の影響で変えられる前のその土地本来の植物群落のことです。したがって、地球上どこでもその場所ごとに樹種が特定されています。日本では、東北以北はブナ、ミズナラ、カエデ類、関東地方以南はタブノキ、シイノキ、カシノキなどが主な種類です。また、レダ基地を含むパンタナール地域だと、ケブラッチョ、パロサント、パラトード、パロボラーチョ、ラパーチョ、アンガロボなどになります。これらから種を採取し、ポット苗をつくり、多種類を混植・密植することでパンタナールの自然林を再生することができます。なぜポット苗の形にするかというと、発芽後1年から2年で根がポット内に充満し、ポットからはずして土に植えたとき、ほぼ100%の確率で根づくからです。

こうして生育した潜在自然植生の木々は、その個体は樹齢が尽きて消えていっても、その後継樹が世代交代を繰り返しながら、次の氷河期が来る9千年まで安定した森を持続させます。このようなホンモノの森が、これまで“不毛の地”とされてきた北部の広大な原野（チャコ地方）を肥沃な土地に変えてくれるのです。それはとりもなおさず、パラグアイの国の持続的発展を意味します。

潜在自然植生は、突然襲う地震、津波、洪水、台風、火災などから生きもの命を守ってくれます。厳しい条件に耐えて長持ちする樹種を、環境の変化に弱いスギの人工林などと比べ、植物生態学の立場からわかりやすく“ホンモノの森”と呼んでいるわけです。

パンタナール潜在自然植生① アルガロボ



アルガロボはマメ科の常緑樹で、南米の乾燥地帯に生息しています。高さは18m、直径は2mほどに達し、非常に堅い刺は自動車のタイヤをパンクさせるほどの硬さです。また、幹も非常に堅く、地下80mからも水を吸い上げるほど深い根を持っています。窒素固定が可能で繁殖力が強いので、「砂漠の王様」とも呼ばれます。

葉は狭い楕円形で対生し、開花期は年に2回あります。12月から3月に最初の花が咲きますが、実を結ぶのは6月から7月の2回目の開花の時です。花は黄色で用途が広い樹木ですが、南米では年々減少しています。一説には、ナスカ文明の崩壊はアルガロボの消滅が一因であるとも言われています。



アルガロボの木に生る実はアルガロバと呼ばれ、滋養に優れ、免疫力を高めるスーパーフードで栄養価が非常に高く、ビタミンB群、ビタミンC、ビタミンE、マグネシウム、鉄、亜鉛、などの健康によいミネラルに加え、食物繊維やブドウ糖、果糖も豊富に含まれています。

また様々な病気の予防に役立つ免疫系の機能を高め、身体組織を保護します。このアルガロバから得られる「アルガロビーナ」は、タンパク質が豊富で天然のエネルギー源となる天然シロップで、貧血や栄養不良による症状を改善し、スポーツ選手、妊婦、子供、高齢者の栄養補助食品として利用されています。

アマゾンのドメアス（日本人移住地）でも植樹活動

ブラジルニッケイ新聞 2011年3月11日付記事より

ドメアスはアマゾン川の河口の都市ベレンより約200 Km南に位置する町で、アマゾンにおける最初で最大の日本人移住地です。宮脇昭氏はパラ州を訪れ、ベレン市ホテルで宮脇式植樹法について講演会を開催しました。

次の日には第20回宮脇式東部アマゾン森林生態系回復の植樹祭をベネヴィデス市で行い、終了後一行はトメアスに向け移動。同市役所主催にアサヒザール自然公園予定地に第21回宮脇式植樹祭を行いました。

今回の植樹祭は現地植樹メンバーの尽力で、市長を動かし、市有地での植樹になりました。

宮脇氏は「狭い場所でいいんです。幅1メートルの土地があったら植えなさい。3本植えれば森に、5本植えれば森林です」と試行錯誤を繰り返しながら

『トメアス森林農法』に取り組んでいる若い指導者達を激励しながら、植樹方法を伝授していました。



今月のトピック

ABMORI2024 植樹活動 スタッフとして参加

歌舞伎俳優の市川團十郎さんが主催する森林再生活動「ABMORI（えびもり）」は今年で10回目。これまで志賀高原の笠岳スキー場跡地に合計7万本以上の苗を植えてきました。

今年は370人が参加してトウヒやダケカンバなど12種類1500本の苗を植える予定で、緑の会会員も準備スタッフとして2日前に現地入りしました。

初めて参加した方でもスムーズに植樹活動ができるように苗木の分類、ロープの準備と、昨年植樹した場所の雑草処理をしました。



YouTube チャンネル

植樹のギモン答えます ④

植樹祭というイベントをするメリットを教えてください

